

竹の子だより

第139号 令和7年4月26日(土)発行
発行責任者 晝場 浩司
編集 明星会本部
発行 社会福祉法人 明星会

【住所】〒250-0052
神奈川県小田原市府川752-5
【TEL】0465-32-7740
【FAX】0465-32-7741

明星会HP



今年の巳年で6回目の年男になりました。巳年に生まれた人は、粘り強い性格を持つと言われ、蛇は古代から再生や永遠の象徴とされています。

今年は、時代の流れの変化に対して前向きな姿勢で取組むとともに経営基盤の安定に努めてまいります。

竹の子学園は開設から30年が過ぎ、設備等の老朽化に伴い、大規模修繕工事を計画的に実施しています。一昨年は、地下のボイラー設備と、昨年度は空調設備更新工事を行い、利用者の皆様が快適に過ごせるよう取り組んでいます。

理事長 安藤 進



竹の子学園

総合施設長 晝場 浩司

最近、新聞で「幸福追求」の文字をよく目にします。昨年度、国を相手にした訴訟で「幸福追求権（憲法第13条）に違反する」と、かなり踏み込んだ判決がありました。ひとつは婚姻の平等を求めるもの、もうひとつは「不妊手術（旧優生保護法）」を強制されたもの。「幸福追求」という、あたりまえの権利が侵害されてきた現実です。いま、障害サービス体系の中で「意思決定支援」の考え方が進んでいます。原点は「幸福追求」の理念になります。明星会では県のモデル事業として、令和3年度から「意思決定支援」に取り組みました。身近な生活のこと、外出のこと、地域のこと。ひとりの時間、誰かと共有する時間。どこで、どのように暮らしたいか。一人ひとり何を望むかを想像します。「福祉は幸せ」、重心病棟の福祉実習で先生に最初にいただいた言葉を想います。

令和7年度 社会福祉法人 明星会



事業計画 重点取組事項

- コンプライアンスの遵守（法令遵守）
 - ・ガバナンスの強化
 - ・法人理念、関係法令、社会的ルール等を遵守
- 人材確保・育成
 - ・働きやすい職場環境作り
 - ・人材育成
- 経営の安定
 - ・修繕費用の確保
 - ・地域連携
- 地域貢献
 - ・委託事業への取り組み方の検討



	所長・管理者	サービス管理責任者等
竹の子学園	施設長 晝場 浩司	副施設長 清田 聡
竹の子ケアセンター	晝場 浩司	和田 友美
パン工房ハッピー	佐藤 光夫	美濃島 嘉治
竹の子ホーム	佐藤 光夫	大橋 辰紀 林 政行
相談支援センターエール	高橋 初美	りあん管理責任者 村田 寛子
放課後等デイサービスぽっぷ	廣澤 貴大	

公益事業

ハッピー・ONE・STEP
(学習支援・居場所づくり)

レタッチ南足柄
(南足柄市就労準備支援事業)

新職員紹介

放課後等デイサービスぽっぷ

阿部 由貴恵

4月1日より、放課後等デイサービスぽっぷで働かせていただくことになりました。分からないことばかりですが、利用者の皆様が楽しく過ごせるようにがんばります。



竹の子ホーム

栗城 恵子 (非常勤職員)

竹の子学園



竹の子ケアセンター



竹の子ホーム



パン工房ハッピー



本部



放課後等デイサービスぽっぷ



相談支援センター エール



社会福祉法人明星会
永年勤続表彰

勤続二十年

和田 友美

竹の子ケアセンター

福祉車両助成

日本財団様より助成いただき、令和7年3月27日に日産セレナが竹の子ケアセンターに納車されました。

この事業により、利用様の送迎サービスを今まで以上に安定して提供することが期待できます。安全運転で大切に使用していきます。



竹の子ホーム

ICT補助金事業の活用

竹の子ホームでは令和6年度障害福祉サービス事業所等ICT導入モデル事業補助金を受けて、すべてのグループホームにインターネット環境等を整備し、タブレット端末を導入しました。

今後はこれらを活用し、業務の効率化を図っていきます。



ありがとう善意の気持ち



- ◆小田原市社会福祉協議会 様より
トイレットペーパー
- ◆小川 博 様より のらぼう菜
- ◆NPO法人報徳食品支援センター 様より
お菓子等



問題解決及び苦情解決

明星会では、苦情解決責任者のもと、各事業所の管理者・サービス管理責任者を受付担当として苦情解決に努めています。

令和5・6年度にかけて2件の苦情がありました。

(1件目)

法人内事業所で利用者様から支援員の言動に対して苦情がありました。支援員が利用者様の希望をきちんと受けとめていなかったことから、ご本人に謝罪するとともに対応の見直しを約束しました。

(2件目)

法人内事業所で利用者様の怪我について虐待事案の可能性があると判断し、市に報告しました。市の担当者が来園し、当日の勤務者の聞き取り調査がありました。その後、市担当者から、虐待の認定には至らないものの、利用者様の権利擁護に関する研修を徹底するよう助言を受けています。今後も、毎年行っている権利擁護研修で虐待のない支援の学びを深め、よりよい支援の提供に努めます。(晝場)



竹の子ホーム

木村 忠茂
(非常勤職員)

竹の子学園

橋本 菜美



長年にわたり、お世話になりました。
皆様、お元気で。

竹の子ホーム

伊豆 滋美

ありがとうございます。

の皆様、ご家族の皆様、今まで本当にありがとうございました。



皆さんの笑顔が私の元気の源でした。感謝の気持ちでいっぱいです。十六年間お世話になりました。利用者

竹の子学園

石井 めぐみ

三十一年間ありがとうございました。

かく優しい感情を持つて働くことと解釈していました。利用者様からの愛にも沢山包まれた環境でもありました。



は様々ありますが「常に温

相談支援センターエール

露木 とし

退職職員

